

高齢者のやまねの家 やまね

だより 30号

発行者 ボランティアグループ なの花

会長 森田 元治

発行所 792-0834 新居浜市中西町 16-20

「やまね」Tel 0897 41-0104

発行日 2010. 11. 30



ボランティアフェスティバル

10月3日 ふれあいプラザで「いきいきボランティアフェスティバル」が、雨の降るなか開催されました。

フェスティバルは、市内の社会福祉に携わっている団体やグループが、自分たちが取り組んでいることを市民に理解してもらおうという主旨で開かれました。

「やまね」も参加し、布ぞうり、ブローチ、手編みのえりまきやベストなどを出展し販売しました。とくに、女性には人気があり、立ち止まって展示品を見てはいろいろ聞かれ、そのことから会話が弾みました。

ボランティアは、新たな気持ちでまた次の作品作りに励んでいきたいと話していました。

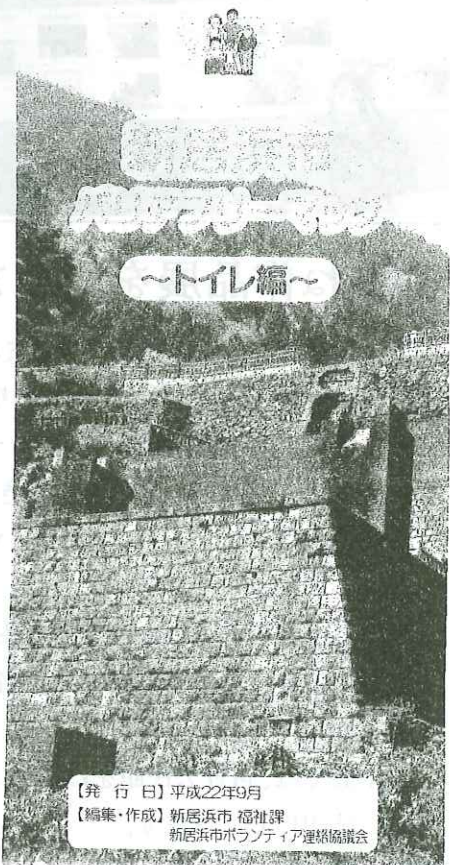


トイレのバリアフリーマップ

新居浜市ボランティア連絡協議会は設立20周年を記念して、市内の主な施設、事業所、公的な場所のトイレのバリアフリーの状況について調査し、トイレマップにして発行しました。

調査にご協力いただいた所へは、10月にお礼を込めてマップの配布をしました。

マップは、障害者や高齢者、幼児の父兄などに向けて作成したのですが、一般の方にも大変参考になると思います。市役所や社協にも置いていますのでご活用ください。



愛媛県社会福祉大会

第58回愛媛県社会福祉大会が10月22日ひめぎんホールでありました。

わたし(森田)はボランティア団体の一員として、角野地区の社会福祉に携わっておられるみなさんといっしょのバスで参加しました。

県下から約2500人の参加があり、功労のあった方の知事表彰などがありました。

その後、元NHKアナの宮本隆治さんの「ゆとり、ユーモア、帰りは元気」と題して話がありました。さすが話のプロの話術は、聴衆を魅了しました。宮本さんは、会場を縦8の字、横8の字に見渡して、その場の自分への応援団長を捜し、その方に視線をなげかけながら話をすすめていくと言われた。応援団長は、必ず一人や二人はいると言われました。

また、ノド自慢については、ここだけの話として予選通過のための裏話もありました。

気になること

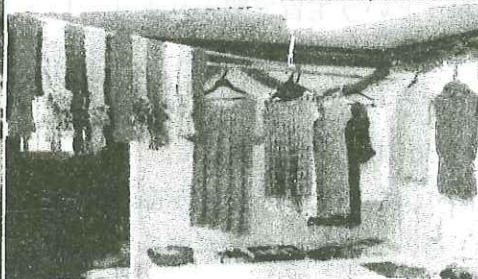
9月のある日、社会福祉団体の役員をされている方と、とくに高齢者福祉について意見交換をする機会があり、わたし(森田)にとっては大変有意義でした。

二人の話は、何の制約もなしに自由な立場ですることができました。

一人暮らしの高齢者、障害者、認知症の方の支援を具体的にどうやっていったらいいのか話の中心でした。

わたしは、福祉に関しては最小限の個人情報の提供と把握は必要だと思っています。該当する本人又は家族から積極的に状況の発信をしないと、災害など本当に必要なときに支援してもらえないことにもなるのではと述べました。

また、認知症の方のことが気がかりです。例えば、「うちのおじいちゃんは、最近認知症の症状が出はじめ、出かけたままなかなか戻ってこないことがある。もし気がついた方がいたらご連絡ください。」ということとその家族から言ってもらえたら、少しは地域の方が気を止めてくれるかも知れないと思うのですが。



やまね作品展を開きました

11月22日、23日恒例のやまねの利用者、ボランティアそれに協力が者が手作りの作品を持ち寄って袋物、編み物、絵手紙、パッチワーク、墨絵それに布ぞうりなどの展示会を開きました。

作品を前にして、それぞれが思いを語り合いました。

2日間で20名の方の参観がありました。

展示終了後、お茶とお菓子で反省を兼ねておしゃべり会をしました。

展示会では、角野公民館をはじめご協力いただいた方に感謝申し上げます。



アルミ空き缶の回収に感謝

アルミ空き缶やプルタブの提供を多くの方々にいただいていることに心より感謝申し上げます。

これからもよろしくご協力の程お願いいたします。